

米沢市SDGs「わたしのなせばなる」を紹介します

企業・団体名 米沢東高校 2年

代表者氏名 片平悠暖、小川芽依璃、長谷川幸姫

関係するSDGsの目標（ゴール）に○を書いてください。（複数選択可）

①貧困 	<input checked="" type="checkbox"/>	②飢餓 		③保健 	<input checked="" type="checkbox"/>	④教育 		⑤ジェンダー 		⑥水・衛生 	
⑦エネルギー 		⑧経済成長・雇用 		⑨インフラ・産業化・イノベーション 		⑩不平等 	<input checked="" type="checkbox"/>	⑪持続可能な都市 		⑫持続可能な生産と消費 	<input checked="" type="checkbox"/>
⑬気候変動 		⑭海洋資源 		⑮陸上資源 		⑯平和 	<input checked="" type="checkbox"/>	⑰実施手段 			

取組のタイトル

服のチカラがもたらすものは

取組の説明

※SDGsの各ゴールの達成にどのように貢献するかなどを記載してください。

※欄が不足する場合や写真・画像がある場合は任意様式（A4タテ）で提出してください。

別紙のとおり（高校生チャレンジ発表資料より抜粋）



服のチカラがもたらすものは

米沢東高校 小川芽依璃・片平悠暖・長谷川幸姫

-1-

実際の様子



-4-

・子どもたちが主体となって
校内や地域で着なくなった服を
回収する



・回収した服は、服を必要とする難民の
子どもたちに届けられる



-5-

服のチカラプロジェクトの歴史

- 
- 2013年** "届けよう、服のチカラ"プロジェクトとして参加校の公募を開始。
107校・約15,000人の児童・生徒が参加。
- 2014年** 120校・約16,500人の児童・生徒が参加。海外にも展開し、フランスでも実施。
- 2015年** 238校・約26,300人の児童・生徒が参加。タイでも実施。
経済産業省主催 キャリア教育アワード 奨励賞受賞。
文部科学省主催 青少年の体験活動推進企業表彰 審査員特別賞受賞。
- 2016年** 270校・約30,120人の児童・生徒が参加。韓国でも実施。
- 2017年** 322校・約30,600人の児童・生徒が参加。アメリカと韓国でも実施。
参加校向け"届けよう、服のチカラ"アワードを開始。活動報告会と表彰式も開始。

-6-

- 2018年** 388校・約40,000人の児童・生徒が参加。
 経済産業省主催 キャリア教育アワード 優秀賞受賞。
 文部科学省主催 青少年の体験活動推進企業表彰 審査員特別賞受賞。
- 2019年** 442校・約40,000人の児童・生徒が参加。
 文部科学省主催 青少年の体験活動推進企業表彰 審査員会優秀賞受賞。
- 2020年** 315校・約30,000人の児童・生徒が参加。
- 2021年** グッドデザイン賞(公益財団法人日本デザイン振興会)受賞。
 625校・約73,000人の児童・生徒が参加。経済産業省主催 キャリア教育アワード 経済産業大臣賞(大賞)受賞。
 文部科学省主催 青少年の体験活動推進企業表彰 審査員会優秀賞受賞。

-7-

2021年度 活動実績・実施校一覧

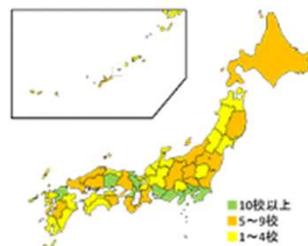
2021年度は全国47都道府県から625校・約7万人が参加し、80万着以上の子ども服を集めることができました。

種別	小	中	高	一賞	他	計
新規	116	77	63	16	4	276
継続	130	81	102	36	2	349
計	245	158	165	52	6	625

※高校は通信制含む。その他は、特別支援学校

※その他は、特別支援・盲学校など

実施校一覧



多くの人が協力してくれてる！

-8-

服のチカラプロジェクトに当てはまるもの



-10-

3. 服のチカラがもたらすものは？

- ・ このプロジェクトの**メリット**は？
- ・ このプロジェクトの**デメリット**は？

→改善点を提案！！



-11-

4. 自分たちの予想

<メリット>

- ・健康被害を防げる
- ・新しく作られる服を減らせる
- ・家にいながらできる
- ・おしゃれを楽しめる



-12-



<デメリット>

- ・服の仕分けなどに人件費がかかる
- ・服を送る輸送費がかかる
- ・習慣、気候、文化、宗教に沿ってない可能性がある
- ・現地の産業が崩壊する



-13-



5. 実際に活動してみた！

- ・ 期間 : 9月3日～10月1日まで
- ・ 回収対象 : 幼児から160cmまでの子供服
(大人服は対象外)
- ・ 回収不可のもの : 靴下や下着、帽子、マフラー、
ベルトなどの小物類
迷彩・武器・ドクロ・血液の柄の服



戦争など辛い記憶を思い出させないため。

-14-

- ・ 回収場所 : 明星保育園、そらいろ保育園、小松保育園



明星保育園



そらいろ保育園



小松保育園

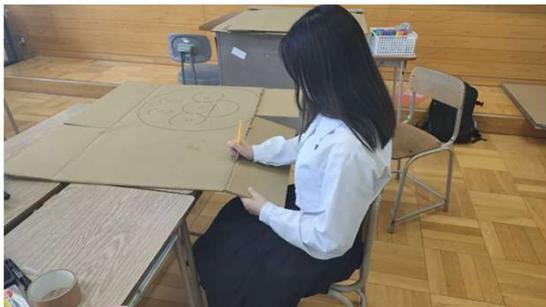
-15-

各保育園をまわって説明をする ➡

子供服を回収するためのポスター、
回収ボックスを作成



-16-



-17-



実際のポスター



-18-



服分別の様子



-19-

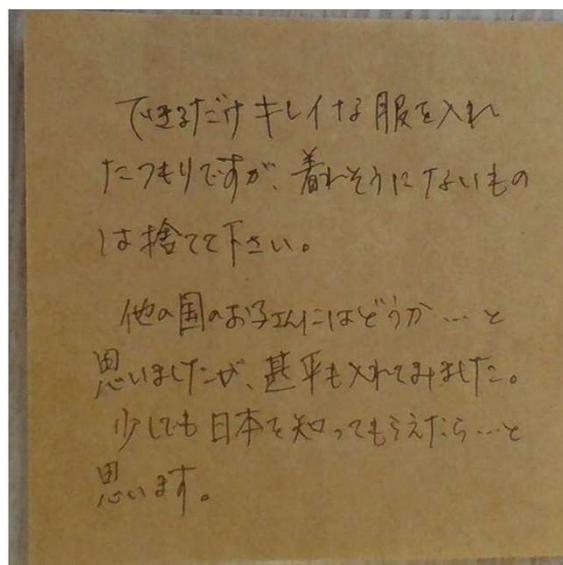
6. 結果



ダンボール17箱分！！
(約254kg)

-20-

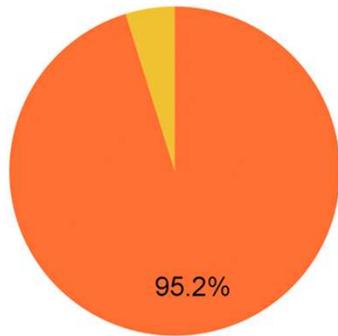
ある保護者の方が服と一緒に入れてくださったお手紙



-21-

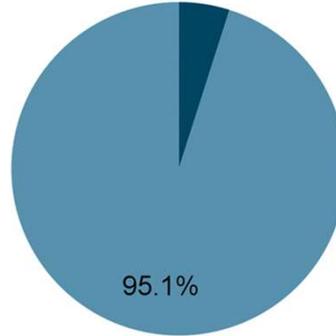
アンケート

1.このプロジェクトが何を目的としているか知っているか



● はい
● いいえ

2.このプロジェクトでデメリットを感じたか



● はい
● いいえ

-22-

3.要らなくなった服は

- ・捨てる
- ・家族や知り合いにあげる
- ・小さく切って掃除に使う

4.参加した理由

- ・自分にできることをしたかった
- ・リユースできる服があったから
- ・思い出のある服が誰かの役に立ってほしいと思ったから
- ・自分も人から服をもらって助かったことがあるから（恩送り）

5.感想など

- ・少しでもお役に立てたら嬉しいです
- ・平和ボケしていることに気づいた
- ・これから着る服なのか着ない服なのか考えるきっかけになった

など

-23-

回収に当たっての要望

- ・定期的に回収を行う（衣替えの時期など）
- ・靴やバッグなどの子供用品の回収
- ・プライバシーを考えて回収する
（子供服には名前が書かれていることが多いので、切り取るなど）
- ・活動する際に早めに（1,2ヶ月前ほど）声をかけること

-24-

7. 提案してみた！

- ・ **保育園の保護者などの大人にも
出前授業をやる**

→目的をわかっていない状態で服の回収に参加している人が多かったから。

-26-

- **ユニクロさんと学生が協力して出前授業を開く**

→服のチカラプロジェクトについて深く知れたり、学生が意欲的に活動する機会を増やすことができる

-27-

具体的な例

- 1.オンラインやコミュニティセンターなどで出前授業を開く



-28-

- ・ユニクロさんが活動できない時期に学生が出前講座を行う
→回収期間が長くなる



ユニクロへ提案している様子

-25-

番外編！

服の再利用法



-30-

参考文献

https://www.uniqlo.com/jp/ja/contents/sustainability/society/youth/school/power_of_clothing/index.html

<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/17goals/>

<https://kifunavi.jp/howto/developping-type/>

<https://sdgs.edutown.jp/action/009.html>

https://jp.yamaha.com/products/musical_instruments/pianos/grand_pianos/index.html

-32-

ご清聴、ありがとうございました。



-33-